

# そらまめ

お酒のおつまみに最適です。  
栽培してみたいかがでしょうか？

# 10月の農作業

**作型** 冷涼な気候を好み、寒さには比較的強いが早まきすると寒害を受けやすい。連作を嫌うので、3～5年輪作する。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
普通栽培					■	■				○	△		仁徳一寸・打越一寸・河内一寸

○：種まき ■：収穫

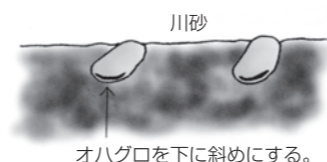
## 畑の準備・定植

### 直まき

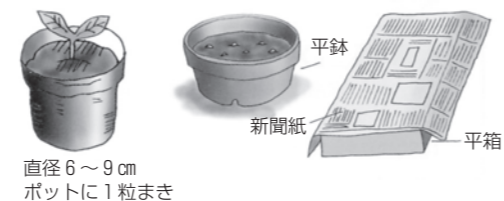
1条まき：畝幅120cm 株間40cm  
深さ2cmの穴に2粒まき、本葉2～3枚の頃に1本に間引く。(地際からハサミで切る) 直まきでは種子が腐りやすいので、ポットでの育苗が良い。

### 育苗

- ①直径9cmのポリポットに一粒、オハグロを下に斜めにしてまき、種が見えない程度に覆土する。
- ②灌水後、新聞紙などで覆う。



〈ポットまき〉



③発芽し始めたら新聞紙を取る。育苗土は、そらまめを栽培していない水田の土か、野菜専用培土を用いる。

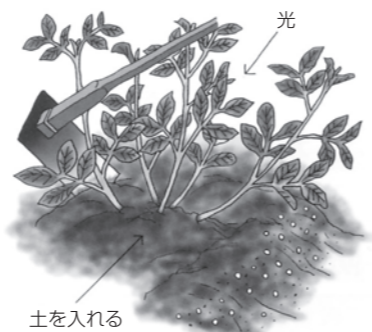
④本葉2枚になれば定植する。

## 追肥・土寄せ

- ・3月中下旬(盛んに育ち始めた頃) 野菜専用肥料4kg/aを施用し、中耕・土寄せを行う。

## 整枝・土入れ

- ・開花が始まったら、伸びの悪い枝は株元から切り取り、5～7本立ちとして、枝が外に開くように下部の中に土入れを行う。
- ・株が倒れないように株元に土寄せし、支柱とひもで固定する。(枝が大きくなると、風で倒れやすい)

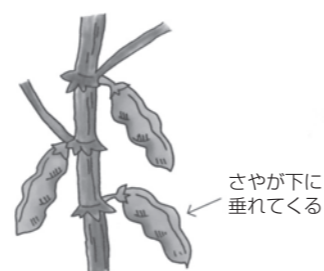


## 防除

病虫害名	耕種防除	薬剤防除
さび病	連作を避ける	ジマンダイセン水和剤 400～600倍 30日前まで3回以内
輪紋病		

## 収穫

- ・さやに光沢が出て、背すじが黒色となり、さやが下向きに垂れた頃。
- ・中の豆はオハグロの中心線がわずかに黒くなりかけた頃。



裏面はこまつなを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.270 平成25年10月16日発行

# こまつな

こまつなは貧血、肌荒れ、風邪予防にも効果的ですので、これからの季節に向けて栽培しましょう。

# 10月の農作業

**作型** 栽培時期により品種を変える。春収穫するものは、とう立ちしにくい品種を。防寒対策(トンネル、パスライトのべたがけ)をして栽培期間を長くする。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
周年栽培			○							○			3～5月播：笑天楽天 6～8月播：夏楽天 9～10月播：極楽天 11～12月播：おそめ

○：種まき ■：収穫

## 畑の準備・定植

<b>土づくり a当たり</b>	
堆肥	300kg
セルカ(有機石灰)	10kg
植え付け1ヵ月前に土と良く混合	

- ・畝幅90cm
- ・2条 (条間20～30cm)

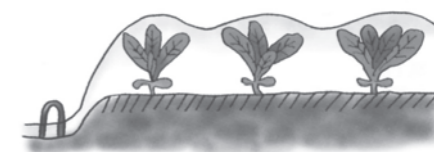
<b>元肥 a当たり</b>	
油粕	30kg
畝立時施用	

## 種まき

- ・浅いまき溝を切り、むらなく種をまいて、軽く鎮圧し、覆土(1cm位)後、切りわらをする。(まき床が乾燥しないように)

## 防寒対策

- ・春まき(3月～4月)、秋まき(10月～11月)など、11月～2月収穫不織布(パスライト)等を直接こまつなの上にかける。
- ・ビニールや寒冷紗のトンネル栽培も良い。(日中高温にならないように注意)



## 間引き・追肥

- ・本葉1～2枚の頃、3～4cm間隔に。
- ・草丈7～8cmの頃6～8cm間隔に。
- ・追肥は生育が順調であれば必要ない。
- ・葉色が薄い時は、野菜専用肥料(5kg/a)または油粕(10kg/a)を条間に施用し軽く中耕する。



## 収穫

- ・草丈20～27cm位で収穫する。(間引きながら) 収穫時葉柄が折れないように注意する。

## 防除

病虫害名	耕種防除	薬剤防除
コナガ	露地では害虫の侵入を防ぐため、寒冷紗などを用いる	アフーム乳剤 2,000倍 3日前まで2回以内
アブラムシ類	光反射テープを畝上に張る	ジェイエース粒剤 3～6kg 播種前作条散布後土壌混和 1回以内

裏面はそらまめを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.270 平成25年10月16日発行